

事後評価報告書  
(日本-ブラジル(CNPq)研究交流)

1. 研究課題名: バイオエネルギー生産に向けた海洋微生物ファクトリーの創生

2. 研究代表者名:

日本側: 北海道大学大学院水産科学研究院 教授 澤辺 智雄

相手側: Federal University of Rio de Janeiro, Institute of Biology

Professor Fabiano Lopes Thompson

3. 総合評価: A

4. 事後評価結果

(1) 研究成果の評価について

ブラジル海域の珊瑚礁を中心として、新規海洋微生物のゲノム解析を行い、マリンバイオテクノロジーの分野で成果を挙げたことは十分に評価するが、具体的なバイオエネルギー生産の手法として効果的かどうかは判断しにくい。相手国側との共著論文が2編、著作が2編出版されたことは基礎的研究として順調に進展したものと評価できるが、相手国側の研究参加学生数が少なく、ブラジル側の本研究への寄与がやや少ないように感じられる。特に相手国における大学院生による実質的研究活動が望まれる。

(2) 交流活動の評価について

若手の国際活動能力育成などを念頭に本事業を遂行し、ブラジルといった遠距離で渡航しづらい地理条件にありながら、若手研究者の相互派遣等、大学院生を含む多くの研究者が相互に交流を深めたことは高く評価できる。多くのワークショップとシンポジウムを開催しており、意見交換が活発に行われたものと判断できる。但し、相手側への日本からの訪問した大学院生は3名であり、もう少し多くの学生に国際経験を積む機会を与えても良かったと思われる。

(3) その他

本課題では国際共同開発が重要であり、メタゲノム情報など得られた成果を今後積極的に発信して欲しい。